

## ＜西宮市教育委員会改善プラン＞

### 中核市移行に伴う初任者研修の再構築

専攻 教育実践高度化専攻  
コース 学校経営コース  
学籍番号 P10015J  
氏名 石飛 弥生

#### 1. はじめに

これからの学校教育は、変化の激しい時代であって、子どもたちに「生きる力」をはぐくむことが期待されている。教員に子どもの学力を身に付けさせる授業力や子どもの基本的な生活態度や社会の形成者としての資質や能力を養う指導力、人としての心や生き方を育む人間教育力が求められる。教員の資質能力の向上は、養成段階より、採用後、現場における実践の中で、先輩教員から若手教員へと知識・技能が伝承されることにより行われてきた。しかし、近年、多くの教員が退職し、それに伴い経験の浅い教員が多くなり、その伝承が困難になりつつある。今後、教員のライフステージに応じた研修の充実が求められる。2008年4月、西宮市が中核市に移行したことにより、教員の研修権が兵庫県教育委員会（以下、県教育委員会）から西宮市教育委員会（以下、市教育委員会）に移譲された。本論は、西宮市の現状と課題を踏まえつつ、初任者研修の再構築について述べるものである。

#### 2. 西宮市の概要

1925年、西宮市誕生。西宮市は兵庫県の南東部に位置している。2011年11月1日現在、面積100.18km<sup>2</sup>（県下27位）、人口483,846人（県下3位）。1963年に全国初の「文教住宅都市宣言」を行った。また2003年には、全国初の「環境学習都市宣言」を行い、「学びあい」「参画・協同」「循環」「共生」「ネットワーク」の5つのキーワードのもと市民・学校・企業・行政が協力して、環境学習を通じた持続可能なまちづくりを進めている。2008年4月、中核市へ移行した（県下2番目）。「夢はぐくむ教育のまち西宮」を教育推進の基本目標としている。

2011年度の教育費は17,344,031,000円で一般会計予算額の10%である。新規事業に教育連携事業と市立高等学校特色化推進事業がある。

#### 3. 西宮市における初任者研修の現状と問題点

##### (1) これまでの問題点

###### 1) 人的資源

小・中・高・特別支援学校の初任者がいるので、一般的教育内容の研修となり、専門的な教科指導に関する内容は校内研修に委ねられている。また、研修の事前打ち合わせが不十分であり、指導主事等の役割分担が不明確で、研修目標や内容の共通理解ができていない。

###### 2) 物的資源

初任者数が多いので、県教育委員会の研修は、講話が多い。市教育委員会の研修では、全員を収容する研修室がないので、他施設の会場を借用しなければならない。

###### 3) 情報的資源

研修の主催者が義務教育課、阪神教育事務所、市教育委員会の3者であったので、内容の重複がある。

###### 4) ネットワーク資源

市教育委員会指導主事が、県教育委員会での研修内容・成果・課題等を把握できていない。また、市教育委員会の他グループの施策・活動状況等の把握が不十分であり、研修内容に生かすことができていない。

##### (2) 改善策の材料

###### 1) 人的資源

市の教育方針について担当指導主事に具体的に分かりやすく説明してもらうことができる。7人の指導主事等を少人数班で行う研修の講師として配置することができる。

###### 2) 物的資源

7つの研修室を活用し、少人数班で研修を行うことができる。研修内容を考えて、班編成を工夫することによって、研修効果を高めることができる。

### 3) 情 報 的 資 源

初任者にシラバスを提示し、研修の目標や内容等を把握させる。市教育委員会指導主事が県教育委員会の研修に参加するので、研修内容や初任者の様子を把握することができる。

### 4) ネットワーク資源

環境教育は、国内でも先進的な活動を行っている NPO 法人子ども環境活動支援協会（略称：LEAF）に講師を依頼する。地域学習は、西宮語り部倶楽部に講師を依頼し、市内史跡等を巡りながら話を聞き、西宮市の歴史や文化について理解を深めることができる。「救急法」の研修は少人数班で実施するため、応急手当普及員に実習指導を依頼する。

## 4. 改善の具体策

初任者研修の改善にあたっては、具体的に目標に明記することが大切である。そして、その目標を達成する研修内容・方法となるように、人的資源、物的資源、情報的資源、ネットワーク資源を効率的・効果的に統合し、調整する。

また、教員の資質能力の向上には、初任者研修だけでなく、教員生活全体の中で継続的・発展的な研修が必要である。教職2年目から5年目までの教員の研修等への継続性や発展性を考えた研修を行うことが重要である。

### (1) 初任者研修の目標

現行の目標は、「教員生活全体の中で研修に努めることで、教員としての資質能力を向上させ、社会の形成者を育成する役割を担う」、「授業力を高めることで、児童生徒の学力を向上させる」、「学級経営力を高めることで、児童生徒をより良い学校生活に導く」、「対人関係力やコミュニケーション力を身に付けることで、同僚、家庭・地域と連携して円滑な教育活動を推進する」である。それらに加え、新たに「教育推進の目標を達成することで、夢はぐくむ教育まち西宮の発展に尽くす」、「西宮市について

理解し、愛着を醸成することで、西宮市の職員であることを自覚して職務を遂行する」を目標に明記する。

### (2) 研修内容と方法

研修内容の改善点は、次の3点である。①教員の対人関係能力やコミュニケーション力の向上を図るために、接遇の基本的知識・技能を講話と実習を通して学ぶ。②教員の資質能力を高めるために、ライフステージについての講話を新設する。③西宮市について理解し、愛着を醸成するために、本市に関する研修を新設する。

研修方法の改善点は、次の2点である。①全員で共通理解をしなければならない内容は、一斉に講話で行い、その他は、少人数の班で実習や協議を行うようにする。②研修内容に合わせて、班編成をする。

### (3) 予想される成果

2012年度の初任者研修施策の改善によって予想される成果は、次の3点である。①研修内容の重複がなく、それぞれの研修の関連性や発展性を考慮した研修が実施できる。また、座学と初任者参加型、課題解決型研修をバランスよく配置できている。②初任者が、自己有用感や達成感を持つことができたり、教員としての使命を自覚し、自己の資質向上に努めたりするようになる。③指導主事が初任者の資質能力や課題を把握できる。

## 5. 今後の課題

研修の工夫・改善を行っていくためには、研修成果や初任者等の要望を把握する必要がある。学校と連携を深めて、新任教員の校内研修について効果的な研修体系を構築するように工夫・改善に努めていく必要がある。学校でのOJT (On the Job Training) の必要性や効果的な実施について、全教職員で共通理解を図ることが重要である。市教育委員会は大学等と連携を図って、初任者研修の充実させることが大切である。

修学指導教員 堀内 孜  
指導教員 浅野 良一